



中学生以下の子供の医療費 無償化の考えは

内田精彦 議員

町長 子育て世帯の医療費負担の軽減を図るため前向きに検討している



同 地域の活性化を図ることを目的として、奥出雲町若者定住対策事業が実施されているが、これからの事業概要とこれまでのU・Iターン別の奨励金の利用状況は、

答 森長地域振興課課長

目的は将来の奥出雲町を担う若者の定住を促進して地域活性化を目指すため、定住する意思を持って転入されたU・Iターン者、また、新規に学校を卒業した方で企業に従事した方に奨励金を交付する事業である。中身としては、交付金がU・Iターン世帯で20万円。単身が10万円。新規学卒者が10万円である。(U・Iターンの利用状況は別表参照)

若者定住奨励金事業 (平成26年11月末)

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年11月末		合計		
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
Uターン	単身	0	0	5	5	12	12	16	16	24	24	21	21	78	78
	世帯	0	0	1	4	13	43	11	34	12	38	6	19	43	138
	計	0	0	6	9	25	55	27	50	36	62	27	40	121	216
Iターン	単身	7	7	15	15	9	9	9	9	21	21	16	16	77	77
	世帯	3	11	6	19	3	9	10	31	9	30	2	8	33	108
	計	10	18	21	34	12	18	19	40	30	51	18	24	110	185
新卒	単身	4	4	28	28	24	24	22	22	26	26	22	22	126	126
	世帯	11	11	48	48	45	45	47	47	71	71	59	59	281	281
合計	単身	3	11	7	23	16	52	21	65	21	68	8	27	76	246
	世帯	14	22	55	71	61	97	68	112	92	139	67	86	357	527
	計														

問 奨励金の交付を受け手が3年以内に転出すれば奨励金を返還する規則だ。状況と理由は、

答 森長地域振興課課長
平成22年度から本年の11月末までの集計で件数が15件、返還額は82万円だ。理由は3年以内に町

外転出したためである。
問 多子世帯医療費助成事業の内容は22歳以下の子供を3人以上養育している場合は中学生以下の子供の医療費が無償であるが、さらなる拡充策はないのか、3人いなくても医療費無償などの考え、検討されているのか。

答 これまでは第3子以上の世帯だったが、子供2人世帯についても各方面から要望も聞いている。そこで、全ての子育て世帯の医療費負担の軽減を図るため、多子世帯医療費助成事業を拡大し中学校卒業まで全ての子供を対象とした医療費の無償化を前向きに検討している。

問 胃がん検診(バリウムを飲む)について、バリウムが身体に合わ

ない人、不適応の方について胃カメラ検査対応ができないか。
答 内田健康づくり推進課長
胃カメラの検査において、バリウム不適応者や、胃の透視での常時精検者については、医療機関において医療従事者の管理下での体の安全確保のための検査が必要と考えている。当面の間は人間ドック等を利用して、胃カメラ検査を受診してほしい。

問 胃カメラだけの場合、医療費はいくらで、自己負担(3割)いくらか。
答 内田健康づくり推進課長
個々によって違うが、約1万5千円で、そのうちの3割と考えてほしい。

問 バリウムが合わない人についての対応策として、胃カメラ医療費約1万5千円、自己負担約5千円のうち、胃ガン検診と同じ町から3千800円の助成を考えてほしい。